

大中遺跡公園

平成19年秋 開園予定



大中遺跡公園の整備イメージ

■デッキ
公園と駐車場をつなぐとともに、狐狸ヶ池の水辺を楽しむシンボルとなるデッキの整備を行います。



■芝生広場
のんびりと古の風景に思いを馳せる、広々とした憩いと安らぎの芝生広場の整備を行います。



■エントランス広場
公園の玄関口にふさわしい演出とともに、待ち合わせの空間として整備を行います。

大中遺跡は昭和37(1962)年に、地元の中学生によって発見された弥生時代後期(約1800年前)の土器が出土した国指定史跡です。現在は「播磨大中国古代の村」として、歴史学習や生涯学習の場利用されています。また、県内の埋蔵文化財を積極的に活用する拠点として平成19年の秋に「県立考古博物館(仮称)」の開館が予定されています。

このようなことから、播磨町では博物館の開館に合わせて、博物館と一体となった公園整備を行います。大中遺跡のもつ古代の雰囲気を保つために自然素材の利用を基本とし、植栽も遺跡に配慮したものを植樹します。また、環境に配慮するために、緑化駐車場の整備や透水性舗装など、ヒートアイランド現象を抑制するための工夫をしています。

そして、車いすが利用しやすいように公園内の傾斜を緩やかにし、園路の幅を広くするなどバリアフリーに配慮しています。

■大中遺跡公園に関する問い合わせ 土木グループ ☎079(435)2365



古代の雰囲気を生かし、みんなが安心して利用できる公園を目指して